

令和 7 年度
福津市学校教育ドリームプラン(案)



福津市教育委員会

福津市学校教育ドリームプラン

福津市学校教育ドリームプランは、福津市総合教育計画に基づき、めざす子ども像の具現化に向けて、福津市教育委員会の重点施策を示したものです。

以下のとおり、学校教育と社会教育・家庭教育の7つの教育施策から構成しています。

- 施策□ 持続可能な社会の創り手の育成
- 施策□ 向学心を高める取組の充実
- 施策□ 誰一人取り残さない学びの保障
- 施策□ 今日的課題に対応した教育の充実
- 施策□ 生涯学習の充実 地域・家庭の教育力向上
- 施策□ 子どもの体験活動の充実
- 施策□ スポーツ・文化芸術活動 伝統文化の継承

福津市では、「志をもち、未来をたくましく切り拓く子ども」の育成をめざし、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担い、責任を果たしながら連携・共働してコミュニティ・スクールを基盤とした教育活動を進めています。

主に、めざす子ども像を共有し、学校・家庭・地域が連携・共働しながら、総がかりで子どもの育ちや学びを支え、持続可能な社会の創り手の育成に取り組みたいと考えています。また、学校・家庭・地域との連携・共働とともにコミュニティ・スクールと地域学校活動の一体的推進を通して「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を推進しています。

本年度は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の全校導入から、15年目となります。コミュニティ・スクールの形成段階（導入期・定着期・充実期・発展期）を経て、追求段階（新化期）に歩みを進めてきました。

これからのコミュニティ・スクール追求段階では、これまでのコミュニティ・スクールの基盤とした教育活動のよさや成果を継承しつつ、検証・改善を行い、時代の変化や実態に応じて追究・強化に向けて重点目標を設定し取り組んでいきます。

【令和7年度のコミュニティ・スクールの推進における重点目標】

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進による課題解決
- 小中9年間の教育課題の解決に向けた学校・家庭・地域との連携・共働の推進

志をもち、未来をたくましく切り拓く子ども

認め合い、鍛え合い、創造する子ども

規範意識や社会性を身に付けた子ども

福津のよさに学び、貢献する子ども

学校

家庭

地域

施策Ⅰ 持続可能な社会の創り手の育成

- ◎コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の課題解決
- 小中9年間の教育課題の解決に向けた学校・地域・家庭との連携・共働の推進 ○ふるさと学習の推進

施策Ⅱ 向学心を高める取組の充実

- ◎市学力向上スタンダードにおける評価・改善
- ◎学級集団アセスメントによる個別支援・学級づくりの推進
- 学力調査を活用した授業改善 ○若年教員対象の実践研修の実施
- GIGAスクール推進員対象の実践研修の充実
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進

施策Ⅲ 誰一人取り残さない学びの保障

- ◎不登校児童生徒の自立支援 ○特別支援教育の充実
- ◎いじめの未然防止、早期発見・対応
- 保・幼・小・中・(高)の連携推進

施策Ⅳ 今日的課題に対応した教育の充実

- 日本語指導が必要な児童生徒への支援
- 働き方改革の推進と人財育成の推進
- SDGsに向かうESDの推進

施策Ⅴ 生涯学習の充実 地域・家庭の教育力向上

- ◎郷育カレッジと学校との連携 ○福津市中学生未来会議の開催
- 地域・家庭の教育力向上の支援
- FUKUTSUコミュニティ・フェスタの開催

施策Ⅵ 子どもの体験活動の充実

- ◎青少年育成団体の支援 ○アンビニヤス広場の支援
- 親子野外活動支援事業の実施 ○海洋スポーツ体験活動の実施

施策Ⅶ スポーツ・文化活動の充実 伝統文化の継承

- ◎部活動地域展開の推進 ○世界遺産学習の推進
- 体カチャレンジ ランキング in ふくつの開催
- 読書活動の充実 ○芸術文化事業の開催・支援

主に社会教育・家庭教育

主に学校教育

福津市総がかりで子どもを育む教育の実現

人も自然も未来につながるまち、福津市。

施策Ⅰ

持続可能な社会の創り手の育成

施策の目的

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進と小中9年間の教育課題の解決に向けた学校・地域・家庭との連携・共働の推進をしていく。

主要事業

事業名	内容
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進による課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ◎統括地域コーディネーター連絡会で、それぞれの各中学校区ごとの取組の推進状況や課題等の共有を通して、地域学校協働活動の推進と地域学校協働活動連絡協議会の充実を図る。 ○演習・講義・情報共有を中心として地域学校協働活動推進員連絡協議会の開催することで、地域コーディネーターの資質・能力向上を図る。
小中9年間の教育課題の解決に向けた学校・地域・家庭との連携・共働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎各中学校ブロックの合同学校運営協議会やコミュニティ・スクール実践報告会で、各中学校区のグランドデザイン及び自校の重点を、家庭・地域で共有し、学校・家庭・地域が共働する視点や取組内容、達成指標・成果指標を熟議にて決定することを通して、連携・協働の推進を図る。 ○市全員研修会で、地域学校協働活動推進員による地域学校協働活動についての紹介をすることで、地域コーディネーターの役割や活動内容等を周知を図る。また、福津市CS推進構想・推進計画等を説明することで、福津市CSの概要の周知を図る。
ふるさと学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎主幹教諭研修会で、ふるさと学習を中心とした探求的な学びを位置づけたコア・カリキュラム(中学校区共通課題解決を図る教育課程)の編成を行い、小中9年間を見通した連続性のある教育活動の充実とふるさと学習の推進を図る。

指標

指標	指標の概要・根拠資料	R6実績	R7目標値
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	「子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、子どもの地域への理解・関心が深まった」の肯定的回答の割合(地域コーディネーター対象調査)		
地域・保護者の方の参加・協力	直接的な協力と間接的な協力の延べ数	<ul style="list-style-type: none"> ・直接3666名 ・間接1204名 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接 4700名^{以上} ・間接 1100名^{以上}
児童・生徒の地域貢献活動	教育課程内・課程外において、地域で貢献活動を行った児童生徒の延べ数	<ul style="list-style-type: none"> ・(内)2103名 ・(外)2333名 	<ul style="list-style-type: none"> ・(内)2500名^{以上} ・(外)1200名^{以上}
地域や社会への貢献意識	「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」の肯定的回答の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・小 81.9% ・中 85.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・小 75%以上 ・中 65%以上

施策Ⅱ

向学心を高める取組の充実

施策の目的	○小中 9 年間を見通した連続性のある教育の実現を目指し、各学校における魅力ある授業づくりや安心感のある学級づくりを推進するとともに、非認知能力の育成を中心とした学力向上を図る。
-------	---

主要事業	
事業名	内容
市学力向上スタンダードにおける評価・改善	◎教頭研修会を学力向上推進会議として位置付け、各学校において特に非認知能力の育成に重点を置いた「福津市学力向上スタンダード」の検証・改善を図り、小中 9 年間を見通した連続性のある学力向上を目指す。
学級集団アセスメントによる個別の支援・学級づくりの推進	◎年間2回の WEBQU アンケートを実施し、学級集団の状況や児童生徒の課題等を即時的且つ客観的に分析し、安心感のある学級づくりや個別課題に応じた支援を図る。 ○学級づくり推進担当者研修会において、学級づくりや校内での推進の方法についての講義や演習、協議を通して、安心感のある学級づくり推進を図る。
学力調査を活用した授業改善	○全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の結果分析に基づく授業改善の提案を校長研修会や主幹研修会において行うとともに、市統一学力調査の実施により基礎・基本及び活用力の定着状況を把握し、各校の学習指導の改善・充実を図る。
若年教員対象の実践研修の実施	○授業力や経営力の高い先輩教員の授業や講義・演習を通して学ぶ研修会、指導主事が学習指導や学級経営について個別の指導を行う研修会など、若年教員の実践的な指導力量を高める。
GIGA スクール推進員対象者の実践研修の充実	○ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業実践と協議、推進状況の共有を通して、各学校の GIGA スクール構想の推進と推進教員の育成とを図る。
個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進	◎GIGA スクール推進担当者研修会において、ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業実践と自律的な学びを取り入れた家庭学習の在り方についての研修を実施して、各学校での個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進を図る。

指 標			
指標	指標の概要・根拠資料	R6実績	R7目標値
全国及び福岡県学力調査結果	小・中、国語・算数(数学)の全ての区分での福津市平均	全区分で全国及び県平均を上回る	全区分で全国及び県平均を上回る
全国学力調査質問結果	○「授業では、自分の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の肯定的回答の割合(主体的・対話的で深い学び)	・小 82.8% ・中 81.7%	・小 80 %以上 ・中 80 %以上
	○「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答の割合(自尊感情)	・小 87.7% ・中 84.7%	・小 85 %以上 ・中 85 %以上
WEBQU での学級集団の状態【活性度】	○学習指導面での学級全体の状態の割合(【創造】【活用】の状態である学級の割合)	・小 75.7% ・中 63.6%	・小 75%以上 ・中 65%以上
WEBQU での学級集団の状態【安定度】	○生活指導面での学級全体の状態の割合(【安定】の状態である学級の割合)	・小 72.4% ・中 47.3%	・小 70%以上 ・中 50%以上

施策Ⅲ

誰一人取り残さない学びの保障

施策の目的	○児童生徒の多様なニーズに応えるための環境の整備を進め、「誰一人取り残さない」教育の実現を目指す。
-------	---

主要事業	
事業名	内容
不登校児童生徒の自立支援	<p>○不登校児童生徒の急増に鑑みて、不登校兆候段階での支援を手厚くする。各校でのサポートルームや支援方法の充実を図る。</p> <p>○教育支援センター（ひだまり）の機能強化を図り、不登校児童生徒及び兆候生の相談・支援を幅広く行う。</p> <p>○各中学校区に SC3名と SSW3名を配置し、学校や関係機関との連携により生活支援と自立支援に努める。</p> <p>○授業参観や情報交換を中心とした中学校ブロック合同実務者会議を通して、不登校児童生徒の支援の充実を図る。</p>
特別支援教育の充実	<p>○特別支援学級担任及び特別支援学級支援員の専門性を高め、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な支援を効果的に行う教職員の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で特別支援教育の中核を担うコーディネーターの資質向上 ・特別支援教育研修会（年2回）による特別支援学級担任としての資質向上 ・通級指導教室担当者連絡会（年2回）による指導担当者の専門性の向上
いじめの未然防止、早期発見・対応	<p>○福津市及び各学校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ見逃し0に努め、いじめを生まない教育活動の推進、早期発見、早期対応に取り組むとともに、市いじめ問題対策連絡協議会、市いじめ防止対策審議会との情報交換等を通して、組織的対応を行う。</p> <p>○WEBQUを活用し、いじめの未然防止を図る。</p> <p>○各校のいじめ問題担当者連絡会を年2回開催し、いじめ問題への取組の情報交換と研修に努める。</p>
保・幼・小・中・（高）の連携推進 ☆こども家庭部との連携	<p>○小1プロブレムや中1ギャップ等の予防・解決のために、幼児・児童・生徒及び教職員相互の異校種交流等を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小接続推進協議会主催の研修会等の充実 ・中学校区の課題解決につながる連携会議等の開催

指 標			
指標	指標の概要・根拠資料	R6実績	R7目標値
不登校の発生率	○市内小・中学校の不登校発生率（月例調査、R6.12月末現在）	発生率（100人当り） ・小 2.16%（△1.2） ・中 6.67%（△1.1）	・発生率は前年度を下回る
いじめの認知率	○市内小・中学校のいじめの認知率	認知率（100人当り） ・小 7.4%（△1.24） ・中 21.9%（△3.53）	・前年度を上回る
WEBQU での学級集団の状態	○学級全体の状態が親和型の割合	・小 72.4% ・中 47.3%	・小 75%以上 ・中 50%以上

施策Ⅳ

今日的課題に対応した教育の充実

施策の目的

○中央教育審議会が示す「令和の日本型学校教育」及びそれを担う教師の在り方を踏まえ、変化の激しい社会に対応する教育内容の充実や教師の育成を目指す。

主要事業

事業名	内容
日本語指導が必要な児童生徒への支援	<p>○福津市における持続可能な日本語指導体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導運営協議会による日本語指導が必要な児童生徒の実態に応じた指導の在り方への共通理解を図る。 ・日本語指導研修会(年2回)による、日本語指導担当教員、日本語指導担当者、学級担任、日本語指導支援員(外部人材)の役割や指導の在り方についての理解を深める。
働き方改革の推進と人財育成の推進	<p>◎教職員の働き方改革を推進する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の実態に基づく働き方改革の推進 ・学校部活動の地域展開する体制構築(施策Ⅶと連携) </div> <p>○初任者指導教員の資質向上により、初任者の学級経営力及び授業力の向上、ひいては、児童生徒の資質・能力の育成を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>指導教員研修会(年3回)の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員としての心構え、校内での初任者研修の進め方 ・年間総括、次年度の研修の在り方 </div> <p>○学級づくり担当者研修会・GIGA スクール推進担当者研修会・若年教員対象の実践研修会等を通して、中堅教諭と若年教諭の学級経営及び授業力の向上を図る。</p>
SDGsに向かうESDの推進	<p>○ESD(持続可能な開発教育)を推進し、SDGsに向かう持続可能な社会の担い手(人財)を育成する。</p>

指 標

指標	指標の概要・根拠資料	R6実績	R7目標値
教職員の長時間勤務の状況	月80時間以上超過勤務している教職員(管理職含む)の割合(4~12月実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・小 6.9% ・中 30%(▼1.5) 	前年度を下回る
初任者の指導力の向上	「研修の内容を学級経営や授業づくりに反映できた」の肯定的回答	95.2 %	90%以上
指導教員による研修の実施	「初任者研修を計画的に進めることができた」の肯定的回答	100 %	90%以上

施策Ⅴ

生涯学習の充実 地域・家庭の教育力向上

施策の目的

○生涯学習の充実を図るとともに、地域や家庭の教育を支える人財を発掘、育成する。

主要事業

事業名	内容
郷育カレッジと学校との連携	◎地域の「ひと・もの・こと」を活用して講座を実施している郷育カレッジの講師を体験活動の講師として紹介し、また、郷育カレッジの受講生と児童生徒がふれ合える講座を開設して、地域と学校の連携を深める。
福津市中学生未来会議の開催	○「持続可能な福津市の未来」をテーマに、福津市をどんなまちにしていきたいか、自分たちにできることは何かを考え、市長・副市長・教育長に提言し、市民に発信し、持続可能な社会の創り手となる資質・能力を育てる。
地域・家庭の教育力向上の支援	○青少年育成市民の会を組織し、市全体で青少年の健全育成と環境浄化等に取り組む。また、小中学校PTAが開催する家庭の教育力向上のための研修や取組に対し、補助金を交付する。青少年指導員会や少年補導員会と連携した見守り活動や、地域パトロールを実施する。児童・生徒を対象に、生活リズムの向上のため「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進する。
FUKUTSU コミュニティ・フェスタの開催	○学校・園の C・S の取組や社会教育における活動の取組について、保護者や地域住民に広く周知し、社会総がかりで子どもを育てる意識を高める機会とする。

指標

指標	指標の概要・根拠資料	令和5年度	目標値
郷育カレッジと学校との連携数	・小中学校との共同事業の実施数 ・小中学校への講師の派遣数	・3 講座 ・2 講座	・前年度を上回る ・前年度を上回る
小中学校と PTA による家庭教育の充実	青少年育成市民の会「家庭の教育力向上事業」実施学校数	小学校7校 中学校3校実施	小学校 7 校 中学校 3 校実施

施策Ⅵ

子どもの体験活動の充実

施策の目的

○様々な体験活動に参加し、集団生活の大切さや自然環境保護の意義等を学び、児童生徒の主体性、協調性、規範意識や自尊感情の高揚を図る。

主要事業

事業名	内容
青少年育成団体の支援	○市の子ども会育成会連合会など、青少年育成団体に対する財政面での支援のほか、団体の活動に対して指導や助言を行い、環境づくりを支援する。
アンビシャス広場の支援	○放課後や休日の児童の居場所づくりや、年齢に応じた様々な体験の機会を提供するため、地域全体で子どもを見守るアンビシャス広場の環境づくりを支援する。
親子野外活動支援事業の実施	○市の豊かな自然環境を活かした活動や伝統文化の体験を通して、市の魅力を感じ、関心を持つ機会を提供することで郷土愛を育む。また、親子での活動を通して、一緒にやり遂げる充実感や家族の絆を深めるとともに、身近な自然に関心を持ち、環境保護の意義を学ぶ場とする。
海洋スポーツ体験活動の実施	○カヤックやヨットなどの海洋スポーツ体験をとおして、児童が海と親しむ機会を作る。子どもたちの健全育成を図るとともに、海を取り巻く環境問題や海と人との歴史を学び、郷土が誇る資源を体感する。

指 標

指標	指標の概要・根拠資料	令和5年度	目標値
アンビシャス広場参加者数	・アンビシャス広場活動数 ・アンビシャス広場活動参加者数	・7 広場 ・延べ 3,937 人 (上半期実績)	・7 広場 ・前年度を上回る
親子野外活動参加者数	・親子野外活動総参加者数	262 人	前年度を上回る
海洋スポーツ体験活動実施数	・海洋スポーツ体験活動実施数 ・海洋スポーツ体験活動参加者数	6校延べ 20 回 723 人	7 校実施

施策Ⅶ

スポーツ・文化芸術活動の充実 伝統文化の継承

施策の目的

○スポーツに触れ合う機会を創出し、また、地域文化を振興することで、心身の健康とスポーツ、文化芸術活動を通じた郷土愛、地域コミュニティの醸成を図る。

主要事業

事業名	内容
部活動地域展開の推進	◎中学校部活動のあり方について、関係者による検討協議会で検討を行い、休日の中学校部活動の地域展開をめざす部活動改革を進めることで、子どもたちがスポーツ及び文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保し、また、学校の働き方改革を推進する。(施策Ⅳと連携)
世界遺産学習の推進	◎世界遺産学習帳を活用し、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の学習を推進する。
体力チャレンジランキング in ふくつの開催	○スポーツをする子どもとしない子どもの二極化が進んでいることから、子どもたちがスポーツの楽しさや効果を実感してもらうため、体力チャレンジランキング in ふくつを開催する。各小学校においては新体力テスト前に、スポーツ推進委員が出向き、保護者も含め、走り方や投げ方、反復横とびの要領などを直接子どもたちに指導し、記録改善を目指す。
芸術文化事業の開催・支援	○文化芸術イベントによる本物の芸術を鑑賞する機会の充実、児童が行っている伝統文化継承活動への財政面での支援などにより、児童生徒の心の豊かさの醸成を図る。
読書活動の充実	○生後4か月健診時の「ブックスタート事業」や市立図書館での0歳児からのお話し会や読み聞かせ活動により読書への関心を高める。「子ども司書養成事業」により、学校や地域での読書リーダーを育て、読書活動の充実を図る。

指 標

指標	指標の概要・根拠資料	令和5年度	目標値
世界遺産・古墳群に関する学習	小中学校での世界遺産・古墳群に関する学習実施数	年間 9 回実施	年間20回実施
全国体力・運動能力等調査	小中学校男女の体力合計点 T 得点 (全国平均値に対する相対的な位置)	小 5 男子 49.0 小 5 女子 47.3 中 2 男子 51.4 中 2 女子 50.5	全国平均値 50.0 を上回る
読書活動参加・実施数	・ブックスタート事業実施率 ・子ども司書養成講座(全7回)参加者数	・97.6% ・19人	・100% ・定員を満たす